

## 会社概要

(2018年3月31日現在)

商号	中央化学株式会社
設立年月日	1961年1月30日 (創業 1957年)
資本金	62億1,275万円
決算期	3月31日
従業員数	1,900名(連結)

## 役員一覧

(2018年6月28日現在)

代表取締役社長	近藤 康正
取締役	森本 和宣
取締役	早澤 幸雄
取締役	竹内 修身
取締役	萩原 剛
取締役	松本 吉雄
常勤監査役	大吉 正人
監査役	山口 吉一
監査役	鳥居 真吾
監査役	中村 竜一

## 株式情報

### 株式の概要

(2018年3月31日現在)

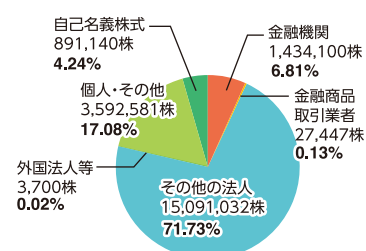
発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	21,040,000株
株主数	1,040名

### 株主メモ

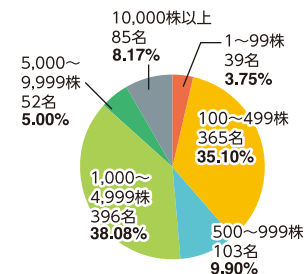
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	連絡先：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (通話料無料) 郵送先：〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 (JASDAQスタンダード)
公告の方法	電子公告 <a href="http://www.chuo-kagaku.co.jp/">http://www.chuo-kagaku.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株主構成 ※2018年3月31日現在の株主名簿上での名義で記載しております。

### ●所有者別株式分布



### ●所有株式数別株主分布



安心を、いつも中央に。

# 株主通信

## 第58期 決算報告

2017年4月1日 ▶ 2018年3月31日

- トップメッセージ  
株主の皆様へ
- 中期計画  
新中期経営計画(2018年度-2020年度)  
中国事業
- トピックス  
SPRING FAIR 2018開催  
宅配事業にワンウェイ製品を提案
- 製品紹介  
中央化学の北欧ブルー

## 株主の皆様へ



株主の皆様には、当社グループへのご理解とともに格別のご支援をいただき、誠にありがとうございます。

ここに第58期株主通信をお届けします。

昨今の国内経済環境は、少子高齢化、生産年齢人口縮小により需要が縮小、産業構造も一段と変化するといわれています。そうした環境下、食品包装容器業界では、核家族化や個食化の進展、デリバリーサービスの利用拡大、少量パック惣菜の多品種化等、ライフスタイルの変化及び中食市場の拡大等により、連動して市場規模は漸増しています。また、デザインの高度化、鮮度保持の高機能化、リサイクル製品の普及等、食品容器の機能に関わるニーズが高まりつつあり、市場変化のスピードも加速しています。

製品コストについては、人手不足、物流のタイト化が構造的なコスト増要因になっていることに加え、原油価格に連動して原材料費が高騰しています。多くの産業にまたがって構造的なコスト増要因

が顕在化している状況下で、食品包装容器業界においても製品価格の見直しが進んでいます。

### 構造改革を通じた体質強化とモノ造り原点回帰

第58期において当社は減収赤字となりました。今期は構造改革を通じて会社体質を強靱なものとし、一日も早い収益改善を目指す所存です。

振り返れば、当社はプラスチック製食品包装容器業界のパイオニアとして高い市場シェアを有し、全国にまたがる販売ネットワークと高い知名度を誇ってきました。多数のお取引先様、創業以来培ってきたブランド、長年の事業展開を通じて得られた情報等は、今なお当社の強みであります。

しかしながら、市場ニーズ、事業構造の変化は加速し、当社の事業モデル変革への打ち手が適時になされていた訳ではなく、強みを活かすきれていないことは事実です。

一日も早い収益改善を果たし、成長を志向していくべく、現状から無理、無駄を取り除き、会社体



質を強靱にすべく、構造改革に着手しました。品質と収益をすべての取り組みにおいて最優先し、全社一丸となって会社体質の変革に全力で取り組んでおります。そのために、責任所在を明確にし、視解化(みえる化)と目的共有を進めるとともに、意思決定プロセスを迅速かつ効率的に行うべく、組織再編を行いました。事業環境の変化に瞬時に対応できるスピード感を育み、業界、市場でのプレゼンスを向上してまいります。

今期は、一日も早く収益改善を遂げるとともに、成長に向けた転機の年度となります。モノ造りの原点に回帰し、即ち、価格競争力、品質、提案力を高めることにこだわり、逃げずに言い訳せずにやり抜く覚悟です。

それに向けては、単に量的拡大を図るのではなく、常に身の丈を確認し、実力を上げながら着実に前進し、具体的には、当社の強みを活かせる素材、機能、デザインを明確に打ち出し、同業他社との差別化を促進します。

例えば、ここ数年注力してきた「ロングライフ容器」。世界的な食品ロス削減に寄与する機能性容器の一つで、今後需要の伸びが期待されます。また、ポリプロピレンベースの断熱積層発泡素材や高透明素材、リサイクルPET等、機能性、デザイン力をもつ独自素材を有し、市場拡大に繋げていく考えです。

### 改革が進む中国事業への期待

当社は90年代半ばに中国に進出し、以後中国経済は高成長し、人件費が急ピッチで高騰するとともに、当社生産拠点の周辺環境も大きく変わりました。このような環境変化を踏まえ、当社は昨年以降中国事業再編に着手し、5工場を海城、無錫、東莞の3工場に集約するとともに、省人化設備を導入し、生産効率向上を進めています。

中国は規模、成長性ともにポテンシャルのある市場であると同時に、日本同様安全・安心へのこだわりが強く、故に当社への信頼感は高いです。また、

当社が他海外市場へのアクセスを持つうえでも、中国を拠点としての取り組みが今後重要になります。

市場での競合は熾烈ですが、中国人主導の構造改革を着実に進めており、新体制下でさらなる競争力強化に取り組んでまいります。

### 業績回復と株主価値の最大化を

新体制でのスタートとなる今年度は、一日も早い収益改善を図り、攻めに転ずる足場を固めるために、大変重要なものとなります。当社が向き合う構造改革とは、正すべきところを正し、未来志向に道をつける改革です。

株主の皆様には大変ご心配をおかけしておりますが、まずは今期の結果を残すべく、私をはじめ役員一同、強い責任感をもって誠実に謙虚に取り組んでまいります。今後も引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

中央化学株式会社  
代表取締役社長

近藤康正

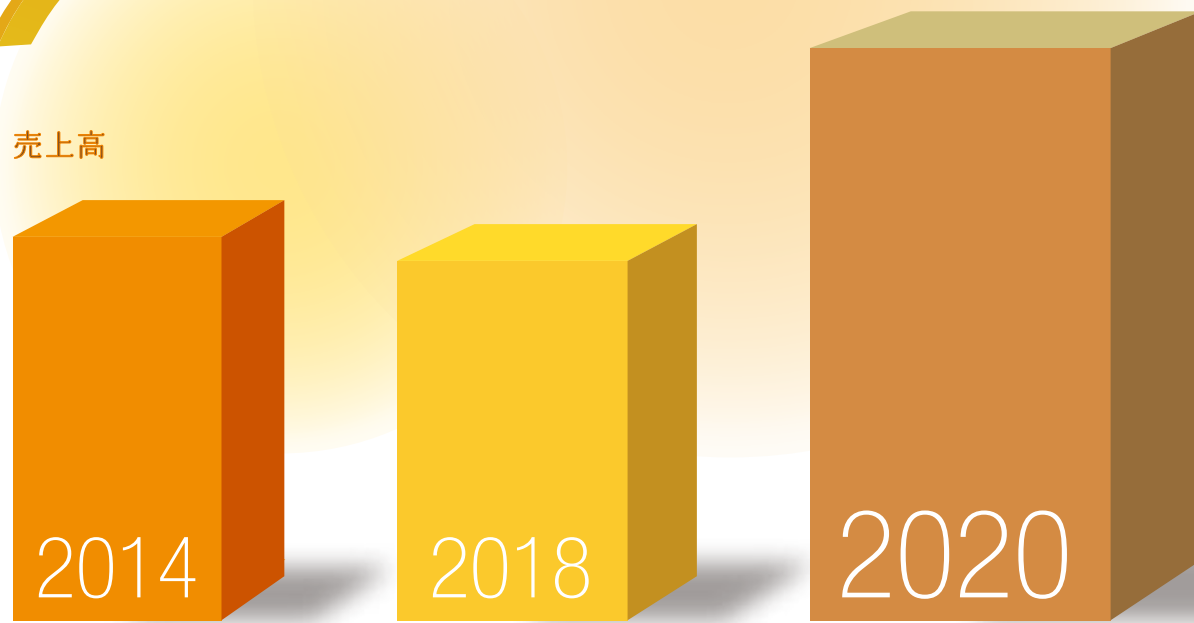
## 新中期経営計画(2018年度-2020年度)

2017年度の業績は、原燃料費の高騰や人手不足からくるコストを吸収することができず、大幅な赤字となり大変厳しい状況となりました。この状況から脱却すべく、4月1日付で経営体制の刷新を実施し、新体制で昨秋に策定した構造改革を着実に実行することで、会社の体質を強靱なものとし、その上で再び攻めに転じ、収益改善を目指します。

### 今後の取組み

- 1 不採算取引の見直し
- 2 生産拠点の再配置
- 3 機能間連携強化
- 4 原価・コスト意識の向上

売上高



## 中国事業

グローバルな視野と地域に合わせた視点で、今後も安全・安心な食品包装容器を提供します。

中国現地メーカーの技術向上もあり、食品包装容器関連市場は厳しい競合環境にあります。安全・安心な当社グループ製品に対するハイエンド市場からの根強いニーズがあります。また北京拠点を海城等へ、上海拠点を無錫等へ移管し、自動化・省人化を進めることで、一層のコスト競争力強化を図ってまいります。



## SPRING FAIR 2018開催

「SPRING FAIR 2018東京会場」が2月14日(水)から16日(金)の3日間、東京オフィスの大会議室、ショールームにて開催されました。

テーマは、「食の未来を包む～包装容器が食を変える～」で、食品業界を取り巻く市場背景やニーズの変化に対して、新製品や機能製品といったプラスチック製包装容器による解決策を提案しました。



## 宅配事業にワンウェイ製品を提案

当社は、市場拡大が見込まれる宅配事業について、ワンウェイで使用できる製品を提案しています。使い捨てが出来るため衛生的で、回収や洗浄が不要となり手間軽減が期待できます。

2018年1月24日(水)、25日(木)、業務用・市販用の食品から、配食サービス、高齢者食・介護食を開発するために必要な素材や技術などを一堂に集める「メディケアフーズ展」に出展し、宅配に適したワンウェイ製品を紹介しました。



## 中央化学の北欧ブルー



陶器のような風合いと  
存在感のあるカラーリング

当社の「沙楽」と「ボレノ」に、まるで陶器のような風合いがある、今までにない色柄を持つ北欧ブルーをラインナップしました。

オムライスやクリームパスタなどの黄色系と補色の関係でもある紺色は、盛り付けた料理をくっきり浮き立たせることができます。



## 連結決算ハイライト

### ● 業績の概要

売上高

**57,774**百万円

営業損益

△ **1,721**百万円

親会社株主に帰属する  
当期純損益

△ **5,350**百万円

### 売上構成比(連結消去前)

日本  
86.2%

中国  
13.8%

売上高…**50,790**百万円  
セグメント損益…△**1,055**百万円

売上高…**8,126**百万円  
セグメント損益…△**206**百万円

当社国内では、営業面において、予て推進しております得意先様との連携強化に一層注力するとともに、当社製品のシェアの低い新分野への営業活動に取り組んでまいりました。また、当社の提唱する機能性容器については、引き続きロングライフ容器へのニーズは高く、多くのお引き合いをいただき、ご採用いただいております。一方、原材料価格上昇に伴い、第1四半期より取り組んできた価格改定については、当初見込んでおりました効果を十分得られず、損益は大きく悪化しました。生産面では、各地域の営業部と連携し、地域独自の食文化に根ざした製品を小ロット

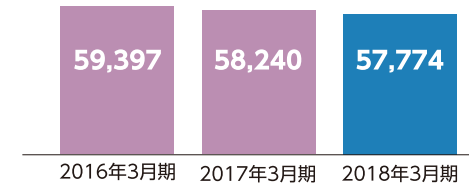
で供給する体制を整え、地産地消の一層の進展を図っております。一方、労働需給逼迫により、当社製造現場においても、人材確保の遅れから、一部の工場において生産効率の低下を招いております。

中国においては、北京・上海各会社の生産停止に伴う事業再編により一時的な影響を受けておりますが、再編は順調に進捗しております。一方、中国の現地メーカーの技術向上もあり、食品包装容器関連市場は厳しい競争環境にありますが、独自の素材を持ち、安全・安心な当社グループ製品に対するハイエンド市場からのニーズは依然根強い状況です。

### ● 収益の状況(連結)

単位:百万円

#### 売上高



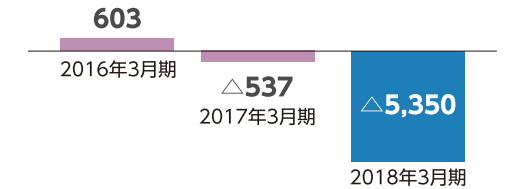
#### 経常損益



#### 営業損益



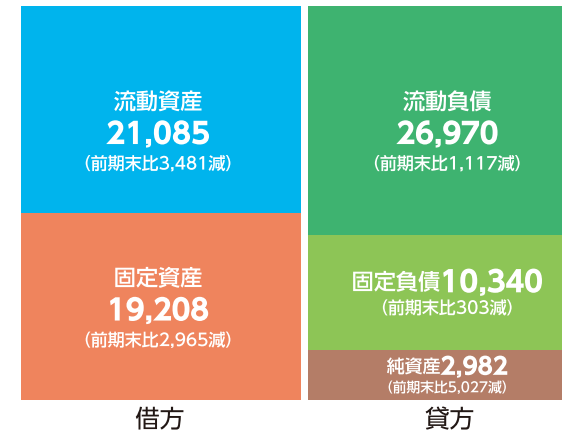
#### 親会社株主に帰属する当期純損益



### ● 資産の状況(連結)

単位:百万円

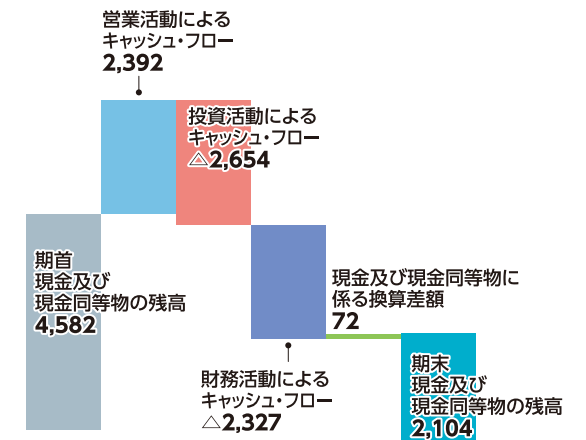
(2018年3月31日現在)



### ● キャッシュ・フローの状況

単位:百万円

(2017年4月1日~2018年3月31日)



※百万円以下は切り捨て